

令和2年4月14日

都立清瀬高校 剣道部員
保護者の皆様

今年度も引き続き、剣道部顧問を務めることとなりました岩淵寛です。1年間よろしくお祈いします。昨年度まで顧問をされていた唐牛靖彦先生が、都立東村山西高校の副校長に昇任されました。現在コロナウィルス感染予防の休校措置がとられているため、唐牛先生に代わるもう一人の顧問はまだ正式に発表されていません。正式に発表があるまで剣道部の顧問は私1名となります。

さて、すでに都高体連剣道専門部ホームページで発表の通り、令和2年度の関東大会(山梨)は中止が決まりました。それに伴い、関東大会都予選(団体・個人)も中止となりました。また、全国総体(岡山)については、4月中に実施可否を決定しますが、現状では、各都道府県予選会は6月中の実施は難しいという判断から、検討中です。

部活動の再開の見通しは全く立っていません。3年生は再開を待たずに、そのまま休部期間に入ることにも覚悟しなければならないかもしれません。このことが、高校生、特に3年生にとってどんなに重たい判断であるか、想像に難くありません。どのような励ましの言葉をかけても、空疎にすぎないことも理解できます。おそらく、全国の志を持った高校生が、説明のつかない気持ちを抱いていると思います。

相手はウイルス。この世界的なつながりをもつ国際社会の弱点に入り込んだ脅威に対し、私たちは防御のための活動制限を受け入れなければなりません。今まで普通にあったものが簡単に無くなる。私たちはそのことに直面させられています。私たちに今できることは何なのか。毎日考えさせられています。でも、何もできないなんてことはないと思います。

「自分で自分を自分する」これは本校剣道部の発展に大きくかわられた故永作誠一郎先生が本校剣道部に遺した言葉です。出典は座禅の世界の言葉ですが、「自分で自分を自分する」とは様々な人間関係や社会関係が生まれる以前の、大自然の中に生かされた、生まれながらの自己を修行するという事です。他者との比較という色眼鏡で自分を評価するのではなく、自分は自分でしかなく、自分を見つめて、自分が今できることに打ち込むことで、自分を理解する。そのことに精一杯打ち込むことの他には何の途もないという意味だと私は理解しています。

思い出話をします。生徒のみなさんにはお話したかもしれませんが、私は大学に行くために浪人をしました。お金がなかったので、予備校や塾に通うお金はなく、六畳の一部屋と台所一部屋という狭い家に、一家四人(ちなみに姉は重度障がい者)が暮らす家で、自分の家で自分だけで勉強する、いわゆる「宅浪」をしました。もともと文系教科が得意だったのに、親は理系の大学にしか進学を許してくれませんでした。家庭の事情により、だれにも勉強を教わることができず、ただただわからない問題集や参考書とにらめっこしました。特に数学は悲惨でした。1問を解くのに1時間かかるなんてことはざらでした。

その1年は、ほとんど社会と切り離された環境で生きました。会う人は家族のみです。レンタルショップの会員更新の時、自分を証明するものが国の発行する国民健康保険証しかない事実を突きつけられ

て、更新した後、自転車に乗りながら号泣して帰ったことを今でも鮮明に覚えています。この環境から逃げたい、消えてしまいたいなんて思うことはたくさんありましたし、社会を恨んだりもしました。友人を友人とも思えなくなりました。でも、「逃げて、消えて、恨んでも、何も変わらない。自分の心が貧しくなるだけだ、自分自身が力をつけるしかない。」と自分で自分を奮い立たせて孤軍奮闘した浪人時代でした。

その頃の経験を通して、人は独りぼっちでは生きることが難しいこと、社会の中で自分が生きるためには、個の強さが必要とされること、そして、本当の人間関係は、個の力を磨いているもの同士が集まらなければ築けないことを学びました。この考えは、今でも、私の生きる基盤となっています。

社会とのつながりが失われている今、みなさんにできることは、「個を強くすること」なのだと思います。強い個を築くために、自分と向き合って、力のない自分を自己分析して、力をつけるための行動を企画し、自分で意思決定して、工夫して取り組む。これを「思念工夫」と呼びます。学校を離れた今だからこそ、学校生活が再開されたときに進化した自分でいられるように自己研鑽すること。そのためには、逃げずに、消えずに、恨まずに、ただひたすらに工夫をして、勉強してほしいと思います。落ち着けば、また剣道はできます。私もみなさんと竹刀を合わせられる日を楽しみに、そして、みなさんの笑顔に会える時まで、勉強したいと思います。

保護者の皆様におかれましては、この非常時、大変な思いをされていると思います。仕事のこと、生活のことなど、事象が目まぐるしく変化する中で、生徒の生活環境を整えることは容易ではないと推察されます。私の家でも、勉強しろといったところでしないわが子を見ながら、ため息をつく毎日です。

どうぞ、お手伝いをさせてあげてください。この期間で、家事を覚えることは、将来、必ず役立つと思います。前述した浪人期間、私にとって、毎日15分の料理番組を見るのが最大の息抜きでした。そして、それが今の生活に大変役立っています。「やりたくない」などと駄々をこねたりしたら、遠慮なく私の名前を出していただいて構いません。私にどんどん言いつけてください。お手伝いをしない人は、剣道は上手になりません。なぜならば、段取りができないからです。今こそ、生きていくためにつけなければならない生活力を育ててあげてください。生活力のない人は、総じて剣道が下手です。勉強も、生活もすべて、剣道につながるよと、小言をいってあげてください。これは、顧問からのお願いです。

ちなみにうちの子たちは、朝から掃除、洗濯、ご飯作り、そしてタイムスケジュールを組んだ学習を毎日、無理やり、やらされています。それでよいのだと思います。保護者会でお話を聞けることを楽しみにしています。同じ保護者として、お互い、頑張りましょう。

都立清瀬高校剣道部顧問 岩渕 寛

P.S. この文章を読まれましたら、必ず「見ました」をつけてください。生徒・保護者両方お願いします。見ましたがつかないと、私が電話しなければならなくなります。業務量削減のために、ご協力をお願いします。